

37 大阪・関西万博での国リハのとりくみ

研究所 高野弘二、井上剛伸、中村隆、伊藤和幸、中山剛、船瀬新王

病院 木村麻美

研究所 高橋智

企画・情報部 柴崎明

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催されていた大阪・関西万博が10月13日で閉幕しました。国リハでは6月21日～29日の9日間、「HEALTH DESIGN 輝き、生きる。|Live Brighter」内で、「障害者自立支援機器 ～「つなぐ」テクノロジー」をテーマとした展示を行いました。展示した内容はいずれも「人と人」「人と社会」「過去・現在・未来」をつなぐ技術であり、多くの人や国をつなぐ場である万博でこのような展示が出来たのは大変有意義なことでした。

個々の展示内容や無数の事務的な話は他の発表にお任せし、本稿では展示ブースや広報、配布物などのことを書くこととします。ただ最初にはっきりさせておくべきこととして、今回の展示の目的は啓発活動です。「こういう活動がある」「こういう技術がある」ということをより多くの方に知っていただき、情報を必要とする方々へ「つなぐ」ことを念頭に置いています。

展示ブースについて、デザインや具体的な設計は企業へ委託をしましたが、方向性として体験型のコンテンツが中心となる設計にすることだけは決まっていました。万博はある種のテーマパークのような側面もあり、来場者の属性も専門の展示会などとは大きく異なります。そのような場で「見るだけ・聞くだけ」という展示で来場者が良い印象を持って帰るのは難しいでしょう。そこで各展示物でちょっとした遊びを含んだコンテンツを準備していただきました(直接関係ない話ですが次回の認定博はセルビアで開催され「人類のための遊び」がテーマです)。この目論見は体験として面白かったなどの感想を含むアンケートの結果から概ね成功と言えるのではないのでしょうか。またアンケートでは国リハを知らなかったという回答が8割ほどで、会期中のブースへの来場者数約12,000人から想定して、9,600人程度への国リハという存在の周知とすると、それなりに大きな効果があったと思われます。

広報としては従来イベントで行ってきた特設ホームページだけでなく、関係各位のご協力により X(旧 Twitter)で会場の様子や体験デモの時間の投稿を連日行っていただきました。また内部向けではありますが、会場の様子を Teams で配信することができました。これらによって、より多くの方へ会場の盛り上がり共有できたものと思います。

配布物としては2種類、取っ手を切り取るとクリアファイルになる手提げ袋と国リハのロゴ入りキーホルダーの配布を行いました。クリアファイルは人の手を渡りやすいものなので、出展後も国リハの名前を拡げてくれることを期待して、キーホルダーも来場者の周辺の方への継続的な露出効果を期待しています。

このような普段とは全く異なる場・とりくみによって、医療関係者からのみではなく様々な関係・方面から必要な方に必要な情報や支援の手が届くことを、そしてそのような支援が必要な方の存在を知る人が増えることで、より多くのものごとを受け入れられる社会へ「つながる」ことを願っています。